

## 議事概要

会議名	第1回森町総合計画審議会
日時	令和7年10月29日(水) 15:00~16:20
場所	森町町民生活センター 2階集会室
出席者	町長、副町長、審議会委員17名、事務局 (欠席委員3名)
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 町長あいさつ</li> <li>3 自己紹介</li> <li>4 会長及び副会長の選出</li> <li>5 報告事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 森町総合計画審議会について</li> <li>(2) 第10次森町総合計画策定について</li> <li>(3) 策定スケジュールについて</li> </ol> </li> <li>6 その他</li> <li>7 閉会</li> </ol>
議事要旨	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 町長あいさつ</li> <li>3 自己紹介 (各委員挨拶)</li> <li>4 会長及び副会長の選出             <ul style="list-style-type: none"> <li>・小泉会長選出、比奈地副会長指名</li> </ul> </li> <li>5 報告事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 森町総合計画審議会について</li> <li>(2) 第10次森町総合計画策定について</li> <li>(3) 策定スケジュールについて</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(1) 森町総合計画審議会について(事務局説明) (質疑及び意見等なし)</li> <li>・(2) 第10次森町総合計画策定について、(3) 策定スケジュールについて(事務局説明) (質疑及び意見)</li> </ul> </li> </ol> <p>委員：幸福度のアンケートは質問が50問ぐらいあり、お年寄りの方にとっては、質問が多過ぎるような気がする。その辺はどうか。</p> <p>事務局：設問を増やすことは可能だが、国のデジタル庁のシステムを活用しており、自治体側で設問を減らすことはできない。 本日時点のアンケート結果速報値として、237の方が回答している。男性117名、女性118名、年齢別では、10代の方4名、20代9名、30代28名、40代49名、50代46名、60代65名、70代33名、80代以上2名。未回答の方もいるため、数が合わないところがある。若い世代から60代、70代方の回答も一定数いる。</p> <p>委員：この回答数は多いのか、少ないのか。</p>

事務局：国では、回答者数が100以上あれば、データとして公開される。近隣自治体は100～110。現時点で回答者数237人であり、近隣自治体に比べて良い数値と考えている。調査期間は、12月5日までのため、引き続き周知等をしていく。

会 長：調査期間は自治体によって違うのか。標準調査期間があるのか。

事務局：調査期間は各自治体で自由に設定ができる。当町は、町民アンケートの実施時期に合わせて8月末から実施して、町民アンケートのチラシ裏面に本アンケートのPRを行った。今後予定している森町を語る会でPRができるように、森町を語る会の最終日である11月30日から数日を置いた12月5日を回答期限としている。

委 員：本アンケートは委員でも回答しても良いか。

事務局：町民の方であれば回答可能である。

委 員：私は20問ぐらいを想定していて、なかなか終わらないという状況であり、最後まで回答するのが大変だなと正直思った。その中で50問を答えるのは、よほどしっかり森町のことを考えている人になると思う。これを答える人のサンプルは、一般の住民を反映しているのか、そのサンプルの母数に偏りが生じているのではないかと感じる。デジタル庁の調査なのでやむを得ないところがあるが、サンプリングそのものの考え方のところで少しずれがあると考えている。その点はいかがか。

事務局：もともとデジタル庁は、当初150問ぐらいを設定され、多過ぎるということで50問にしたという経緯があると聞いている。サンプリングの精度については、意見のとおりであり、町としては、精度を高めるためにできるだけ回答数を上げていきたい。今後、森町を語る会等、町民の方から直接意見を聞く場もあるため、フォローできるように検討して、できる限り精度の高いものにしていきたい。実際、どこまで求めるかというところはあるが、精度を高める取組については、事務局で検討していきたい。

委 員：ウェルビーイング指標として客観指標、主観指標が出たときに、この総合計画に対して新たな視点といった形で活用していくことになると思う。新たな視点と核となる視点の2つあるが、どういった活用を予定しているのか、現時点で考えているところがあれば教えていただきたい。

事務局：どの程度まで計画に記載していくかは今後の検討であるが、核となる視点については、遠州の小京都リノベーション推進計画に基づく各事業や、昨年度末に協定締結して、今年度から自転車の取組をヤマハ発動機株式会社と進めている事業などある。これまで進めているものについても、計画に記載していきたい。また、新たな視点については、今までの計画にはなかった考え方を視点として計画に記載したい。

委 員：私から50問回答した話をしたが、50問、100問が私は重要と思っている。幸福度という、ふわっとしたものを数量化、定数化するところに意味があるが、そのふわっとしたものを、50問の細分化によって数値化できる。その50問を新たな視点で設定するのであれば、例えば、森町らしさに関係するのが50問のうち5個か6個は必ずあるはず。そういったものを細分化して、どこに関係するのかということ进行分析することで、森町らしさや社会情勢の急速な変化に対応した持続可能なまちづくりという中に、ウェルビーイングと整合性のある取組をつくっていくことができると思う。

事務局：現時点は、具体的にどこまで指標として活用していくかは決まっていない。ただし、町民が感じている部分と客観的に見たときの差を見ることができる。また、他のアンケート調査や各課で生の声として持っている部分もあり、現場の声も把握した上

で、精査して事業の中に組み込んでいきたい。

委員：森町を語る会について、開催することは大変うれしいことであるためお願いをしたいが、地域住民は、町長を目の前にして言いたいことがなかなか言えないのが本音だと思う。意見や要望がたくさん出て処理できないこともあると思うので、事前に要望書のような形で渡すことも良いのかなと思う。町長や議員に対して、森町を語る会のような場がなかなかない。多く発言したい人もいるため、言えないことは紙で提出してはどうかと思う。

委員：資料2スケジュール表についての確認。計画を立てるのにまず構想を立て、構想を固めてから計画の策定に取り組む。重複する部分はあると思うが、スケジュール上では、基本構想については、1月か2月に骨子ができたものを審議会に掛け、3月末に決定するというスケジュールで良いか。

事務局：現時点では、今年度中に審議会で協議して、基本構想を固めていきたい。森町議会の議決もあるため、3月末までに基本構想が固まれば、6月の森町議会で議決できるように進めていく。

委員：基本構想に対して、フィードバックや町民の声は盛り込まれる予定か。

事務局：基本構想については、各種の調査結果等を反映することを考えている。その後、町民を代表する森町議会への報告や、広報もりまち、ホームページ等でも周知していく予定でいる。

委員：議会の中で町民の声を反映させるという考え方で良いか。町民を代表する議員であり、その承認を得ることで民意を得るという考え方で良いか。

事務局：議決を得るという意味では、そういう形になる。

委員：ウェルビーイングアンケート調査のサンプル母数の話だが、意識の高い人や得意な人の意見は通るが、そうじゃない人の意見は反映されないのが実態だと思う。それをベースにして作った基本構想だと、町民全体のコンセンサスが取りづらいかなど思ったが、議会を通して対応するという点であれば理解した。

事務局：1点補足するが、町民アンケートや様々な調査等で得た意見を参考にして基本構想や基本計画を作ることになる。基本構想については、条例で議決が必要であり、議論して組み上がったものを、最終的に議決をいただく考えでいる。

委員：ウェルビーイングアンケートについて1点お願いがある。今回、多くの調査を通じて意見を伺うという姿勢は、大変素晴らしいと思う。ただ、ウェルビーイングアンケートは、他の自治体との比較ができるというのが肝だと思っている。他の自治体に比べて強みとかポジションも分かると思う。他の自治体と比較をする点と他の自治体に比べてこうなっていきたいという点を整理できれば良いと思う。

委員：資料2スケジュール表で、第2回審議会の主な内容が書かれており、現行計画の評価結果という項目がある。第9次総合計画は「住む人も訪れる人も心とらぐ森町」で10年間進んでいるが、どこまで達成したか、実感として得られたのか、評価や検証をする機会が欲しいと思う。そこをベースに、次の10年はどうしていくのかだと思ふ。第9次総合計画の評価をどのように測っていくのか。アンケートの中に織り込んでいると思うが、説明していただきたい。

事務局：第9次総合計画の評価については、町民アンケート調査の中で、現行計画の満足度や、今後も重要かどうかという設問がある。また、庁内でも事業としてKPI設定を

しているため、進捗度を確認していく。

第2回総合計画審議会で、現行計画の評価結果は示す予定。また、12月議会の全員協議会でも総合計画策定状況と進捗状況を報告させていただく予定。そこでも評価結果を説明できればと考えている。

会 長：私は、公共政策の見地から参考までに申し上げる。

1つは、第9次総合計画を拝見すると、この計画は、2000年前半から2010年半ばぐらいまでに作られた計画パターンである。今は変わってきており、例えば、この計画書の31ページを見ると、まず、目標指標という言葉は、今はない。当時は使われていた。指標はあくまで物差しで、何かを目指しており、その途中段階の5年、10年の段階でどの程度進捗しているかという、物差しの一つに過ぎない。これ自体が目標にはなり得ない。目標指標という言葉自体は、今は使われず、あくまで単なる指標もしくは参考指標とされている。

それと、ウェルビーイングも世界的な動きの中で、国もそうだが、これも結局、日本の場合、指標を重視し過ぎているところがある。あくまで参考の物差しで当ててみるものだけで、何かそれができた、できないで短絡的になってしまう傾向がある。これは日本の特徴だと言う人もいるが、あくまで物差しとして、一個一個の指標の数字を直ちに結論とせず、要は、その指標を見て分析した結果で評価をするという、分析があつての評価が必要。短絡的にできた、できないではない。

進捗度はできた、できないを測るものとしてあつて良いが、それは、この総合計画ではなく、その下の事業ごとの進捗度の管理として、計画どおり今年はできた、できないという管理は重要。総合計画は、それより上位の話になる。2000年頃は、私自身も実は指標第一主義のようなことで書いていたこともあった。ただし、その時に、東京大学のアメリカに行っていた先生は、アメリカでは2000年の段階でそうではないということをも有名な教科書で書いている。

結局、目標指標と書いてしまった結果、何を目指してるのか。例えば、現行計画の30ページ、31ページを見ると、「現況・動向」があつて、「施策の方向」が記載されている。目指す方向性というものがあり、そのためにこういった方向性で取り組んでいくという流れになると思う。昔の森町の計画はそういった仕立てになっていた。第8次総合計画などを参考に、次期計画は仕立て直したほうが良いかもしれない。もう一つお願いしたい点は、全職員の方がこの計画に取り組むということについては、良いことだと思う。職員は、日頃の業務の中で、関係する町民や団体の方とやり取りしている。日常業務の中で把握していることを一番のベースとして、アンケートで、本当に合っているのかどうか検証する。アンケート調査は、仮説があつて、それを確認するために行う。

アンケート調査も重要だが、重視してほしいことは、各担当者が日常業務で聞いている内容。例えば、商工会の方と話す際に雑談をしていただく。要は業務だけで帰さないで、町で考えていることや疑問に思っていること、したいことを聞き出すことが必要。各部署で、町民が望んでいるのではないかと、必要ではないかというベースがあるはず。それが整理されていない、顕在化していない場合があるので、総合計画を策定する機会に情報共有してもらい、アンケートと照らし合わせれば良い。

副 会 長：前職の経験を含めた話をするので、的が外れているかもしれないが、今、全てのものが改革期に当たっている。教育では、学習指導要領が10年周期で変わる時期であり、国の動向を読んでおかないと空回りになる恐れがある。

今までのがんじがらめの教育から、考え方そのものが変わっていく。教育の動きが、小中の義務教育も踏まえて、高校無償化や大学のあり方も同様に、この10年でさらに早く変わるため、情報をキャッチアップしていただければと思う。

委 員：商工会は各地にあつて、静岡県内には35あり、会員数の大小で仕組みを変えていたりする。多い会員数だと2,000前後いるが、森町では600前後あったが、2年ほど前に500を切った。森町は一人親方の商売が多いため、脱会届が毎週のように出てくるのが現状である。

ウェルビーイングは良いが、無理に幸福度を押しつけることがないような形で、現実を見ていただき、少しでも便利に、かつ町が活性化するように考えていただきたい。

私の専門はお茶屋であり、お茶が最近抹茶ばかり売れている。抹茶の原料は碾茶あり、ふわふわして、従来のお茶の半分ぐらいの量しかない。そんなこともあり、冷蔵庫や倉庫が足りなくなったため、不動産会社や建設会社と土地と一緒に見て回った。天方・三倉地区に適当なところあり、料金も安いし、いいなと思ったが、その不動産会社から、借りるならいつでも返せるが、買ってしまうと万が一必要なくなったときに売れないのではないかとされた。

委員に町議会議員もいるが、僻地が陸の孤島になりつつある感じがする。少しでも改善して活気のあるまちになるように、ぜひお願いしたい。そういう点では、商工会や個人的にも協力をする。ぜひ活気のあるいいまちにしていきたい。

会長：私が申し上げたかったことは、今のような声を、森町と語る会ではなく、職員がいろいろ吸い上げていくことが大事だということを申し上げたかった。

6 その他

7 閉会

以上